

5. 3 高校教育検討小委員会

1) 活動目標

本委員会では、高等学校土木科教育の充実と発展を図ることを目的とする。また、その目的を達成するために下記の活動を行ってきた。

(1) 年2回の高校教育小委員会の開催による東西教育研究会の連携

土木系教育を行っている高等学校で組織される東日本高等学校土木教育研究会（加盟校102校）と西日本高校土木教育研究会（加盟校72校）で連携を図ることにより、全国レベルで定期的な土木教育に関する意見・情報交換できる場を提供する。

(2) 夏期講習会の実施

高等学校土木科教育に携わる教員の立場から、興味深いテーマを選定し研修会を実施し、その資質向上を目的としている。また、参加資格は高等学校の教員に限らず、学生や一般の方も対象として、広く多くの方に参加していただいている。

この夏期講習会は昭和42年（1967年）から昨年まで計44回、毎年実施している。最近2年間の夏期講習会のテーマは下記のとおりである。過去の夏期講習会の開催場所とテーマの一覧については、土木学会 HP 教育企画・人材育成委員会 高校教育小委員会のページを参照して頂きたい。

(<http://www.jsce.or.jp/committee/education/koukou/files/土木学会夏期講習会記録080801.pdf>)

① 43回夏期講習会の実施（平成21年8月5日：横浜市）

テーマ「東京湾の環境問題とこれからの土木技術の関わり」

② 44回夏期講習会の実施（平成22年7月27日：神戸市）

テーマ「水道の歴史と未来」

(3) 会報の見直し、電子データ化

会報に関しては、平成18年度版（会報No.35）まで、冊子としてまとめていたが、予算の削減やペーパーレス化、および電子化の方針に則り、平成19年度版（会報No.36）から電子データ化を図った。

2) 活動成果

(1) 年2回の高校教育小委員会の開催による東西教育研究会の連携

①平成21年度土木学会教育企画・人材育成委員会第1回高校教育小委員会

- 1 会報No.36からの電子化を継続する。
- 2 高校教育小委員会HPの充実を図る
情報量や内容の選定を明確にする。
- 3 (社)全国工業高等学校長協会主催高校生ものづくりコンテスト測量部門について
現行のルールでは順位を決めるのが困難な状況である。外業、内業それぞれについて
問題点を挙げて、ルール改正等の見直しを図る。
- 4 日建連の「人材確保・育成策について」の情報交換
- 5 土木施工技術向上検討委員会において、2級土木施工管理技術検定試験の学科試験
について、申込期間、受験日、合格発表日、問題内容等に関する要望・意見を伝える
ことを報告した。
- 6 今後の夏期講習会の内容について検討した。

- ③ 平成 21 年度土木学会教育企画・人材育成委員会第 2 回高校教育小委員会
- 1 会報のCDで配布をやめて、高校教育小委員会HPの充実するという観点からも、HP上からダウンロードできるようにする。
 - 2 東日本高等学校土木教育研究会報告、西日本高校土木教育研究会報告を受けて東西の研究会の活動状況が把握できた。
 - 3 土木学会技術功労賞候補者推薦について
沖縄県 照屋安俊氏を推薦することに決定した。
 - 4 建設スキルアップサポート制度について
 - 5 「2級土木施工管理技術検定試験」学科試験の有効期限撤廃の陳情について
- ④ 成 22 年度土木学会教育企画・人材育成委員会第 1 回高校教育小委員会
- 1 2級土木施工管理技術検定試験について
 - ・試験会場の要望について（九州ブロック）
 - ・今年度から申込期間が2週間遅くなった
 - ・ジュニアマイスターの点数アップについて
 - 2 委員会としての活動の活発化について
- ⑤ 成 21 年度土木学会教育企画・人材育成委員会第 2 回高校教育小委員会
- 1 親委員会の報告
 - ・小委員会の予算について
 - 2 第 45 回夏期講習会計画
 - 3 土木学会技術功労賞候補者推薦について
(案) (東)神奈川の浜屋光昭先生、(西)兵庫の山川豊治郎先生
 - 4 土木系の標準テスト在り方に関するアンケート調査の報告について
(回答率：東日本 101 校中 86 回答 85.1%、西日本 72 校中 62 回答 86.1%)
全国的アンケートが可能なのは土木だけである。
 - 5 「民衆のために生きた土木技術者たち」について
 - ・会員校への配布を検討する。
 - 6 次年度委員の委嘱について